

緑道をなくしてしまうと・・・？

緑道などの森林破壊と地球温暖化の関係

地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素による温室効果ガスです。(図1) しかも、その内の20%は森林伐採による光合成の減少です。光合成が減ること、二酸化炭素が増加します。他にも、伐採したのち放棄され腐ったものもあります。もしも緑道などの森林破壊を続けると、元から進行が活発になってしまっている地球温暖化がもっと活発になるきっかけになってしまいかもしれません。昔に比べて下田町の緑は減っています。(図2) 緑を減らすと、地球の平均気温が上がり、台風の大規模化や線状降水帯、ゲリラ豪雨が起きてしまう可能性があります。すると洪水が起きやすくなります。現に、今は昔より洪水が増えています。(図3) さらに下の記事にもある通り、洪水も起きやすくなります。

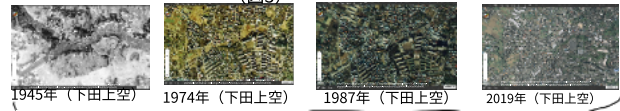
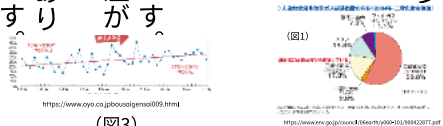
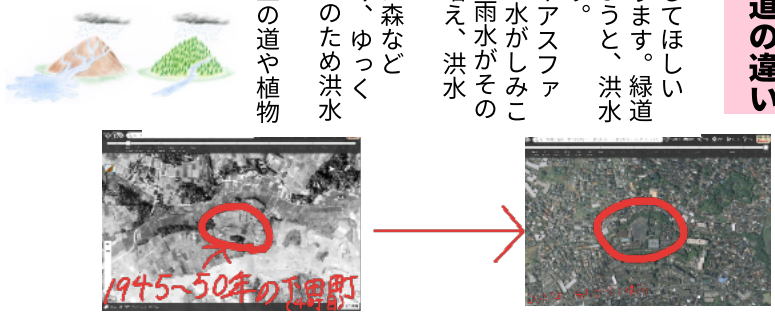


図2 https://maps.gsi.jp/#18/35.557887/139.630957/&base=ort&ls=ort%7Cgsi-compare-photo&blend=0&disp=11&cd=gsi-compare-photo&vs=c1g1j0h0k0l0u0f0z0r0s0m0f1

コンクリートと土の道の違い

緑道をコンクリートにしてほしいという意見が下田町にあります。緑道をコンクリートにしてしまうと、洪水につながる恐れがあります。なぜならコンクリートやアスファルトは土の道に比べて、雨水がしみこみにくからです。なので、雨水がそのまま川へ流れて川の水が増え、洪水が起きやすくなります。土の道や、植物が生えた森などは、雨水が染み込みやすく、ゆっくり川へ流れていきます。そのため洪水が起きにくくなるのです。なので、緑道のような土の道や植物を大切にしてほしいです。



上の写真は昔と今の下田小学校の航空写真です。1945～50年と2022年の航空写真を比べた時、2022年の方が緑や畑などが少なくなり、住宅地が増えていることがわかります。このまま緑が減っていくと、上の文で説明した通り洪水が起きやすくなってしまいます。なので、今ある緑を大切にしましょう。

緑道を残すことのメリット

緑道を舗装する、という考えは、地球温暖化の進行のきっかけの一つになりえます。だから、身近な緑や自然はなるべく残しておくことが大切なのだと考えます。

命の緑道新聞社の思い

私たちは、下田の大人の方たちに緑道の大切さや魅力を知ってもらうために新聞を作っています。この新聞で伝える思いとは、緑道の中にある生き物の命や歴史を守ってほしいということです。

- 一ページ目 インタビュー
二ページ目 自然の大切さ
三ページ目 緑道の歴史
四ページ目 緑道の生き物
緑道にいる小さな生き物にも役割があるのです。

緑道の会の田辺さんにインタビューしました。

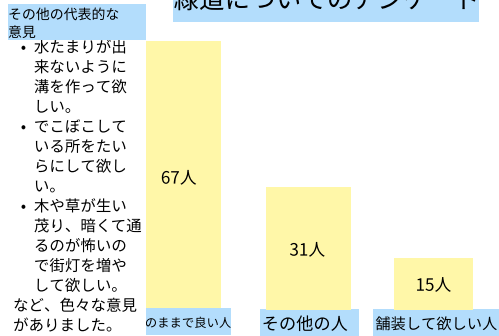
田辺さんに、なぜ緑道を大切にしたいのか、インタビューをしました。田辺さんは、「緑道は、さまざまな生き物がたくさん住める環境になっています。しかも、土の中には、微生物がいます。人間は、その微生物を少しずつ吸っていて、免疫力が下がります。つまり、人間の体にも健康的なのです。そのため、緑道を大切にしたいですね。」とおっしゃっていました。

アンケート結果について、田辺さんは...



田辺さんに、アンケート結果に対して、どう思うかインタビューしました。「なぜコンクリートなどに舗装しないかという、水がしみこまず、さばく状態になって、微生物が死んでしまうからです。」とおっしゃっていました。水たまりが気になるという意見に対しては、「水たまりなどがある日は、別の道を通れば良い。水たまりがない日は、緑道を通るなどする。自分でこのように工夫する事は、脳トレにもなるので、工夫することを楽しんでほしいですね。」とおっしゃっていました。

緑道についてのアンケート



下田小学校四年生の保護者の方百十二人に、緑道についてどう思うかのアンケートをしました！

その他の代表的意見
・水たまりが出来ないように溝を作って欲しい。
・でこぼこしている所をたいらにして欲しい。
・木や草が生い茂り、暗くて通るのが怖いので街灯を増やして欲しい。
など、色々な意見がありました。

命の緑道新聞

発行者 命の緑道新聞社
(下田小学校4年1組)
2024 (令和6)年2月1日
第2号

松の川緑道の歴史

松の川を埋める際に最初はコンクリートにしようとしていました。ですが、下田町の住人の田辺さんたちから「道を土にしよう」という意見が出ました。また「間引きなどをせず緑豊かな道にしたい」という意見も出ました。その意見をもとに、工事することになりました。そして、工事の際になくなった植物を植え今の状態になりました。

川が埋められた理由②

緑道は昔「松の川」「下田水路」などと言われていました。緑道は一九五五年頃水田でした。元々は田んぼの農業水路でした。ですが、人口が増え田も減り川が汚れてしまいました。一九八五年頃から一九九〇年代にかけて川を埋め戻してしまいました。その為、植物が減り生き物が生きられなくなりました。

川が埋められた理由①

昔は緑が多かったのですが最近緑が少なくなっています。しかし緑道があることによって緑が保たれているのです。

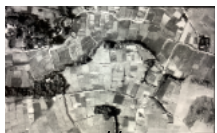
緑道は埋め立てられた後緑道の会の人たちが清掃や維持管理を行なっています。

1945年 ↓

1961年 ↓

1974年 ↓

2019年 ↓



<https://maps.gsi.go.jp/#18/35.557887/139.630957/&base=ort&ls=ort%7Cgsi-compare-photo&blend=0&disp=11&lcd=gsi-compare-photo&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

3ページ

緑の歴史

一九四五年は住宅地が少なく緑が多くありました。一九六一年は人口が増え学校ができました。一九七四年は人口が増え緑が減りました。二〇一九年は緑が大幅に減りました。

4ページ



緑道の季節の植物

ヒガンバナは、9月下旬から10月上旬に咲く花です。一般的によく見られるのが赤のヒガンバナですが、白や黄色、ピンク、オレンジなどがあります。下田の緑道では赤のヒガンバナが咲いていました。

ハルジオンは、キク目キク科の花です。5月から6月上旬に咲く花です。ハルジオンは、ヒメジョオンに、似ています。

夏みかんは、7月下旬から9月下旬、緑色になります。そして、夏みかんの花は甘さやかな香りがします。

どんぐりは、10月から11月になる実です。そして、ぼうしつきは、めずらしいです。

スキキは、イネ目イネ科の実です。9月下旬から11月下旬に実がなります。

ヤツデは、セリ目ウコギ科の属です。11月から12月に咲きます。

サザンカは、11月、12月に花を咲かせる数少ない植物です。サザンカでは含羞がなく、花びら一枚一枚がほらほらに散ります。

梅の花は、1月下旬から4月下旬にかけて、咲きます。下田の緑道では1月19日に梅の花が咲いていました。

緑道の四季の変化

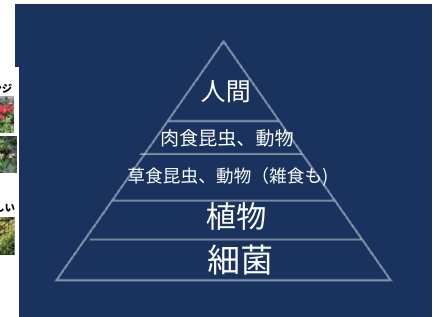
春は、ナナホシテントウやモンシロチョウなどが居て、豊かです。

夏は、アオスジアゲハやアブラゼミなどが居て、にぎやかです。

秋は、ショウリョウバッタやオオカマキリなどが居て、穏やかです。

冬は、ヤスデやわらじ虫などが居て、静かです。

<p>春</p> <p>ナナホシテントウ 成虫、幼虫ともアブラムシ類を食べます。成虫で産卵します。</p> <p>てんとう虫科 大きさ4.5~5.5mm 場所本州~南西諸島 季節4~11月</p> <p>モンシロチョウ 成虫は小で、黒い部分があり飛走しません。人間には見ませんがメスは卵を外縁を強く反折しています。さなぎで産卵します。</p> <p>大きさ25~30mm 場所日本全土 季節3~11月</p> <p>秋</p> <p>ショウリョウバッタ 明るい草原に住みます。飛ぶ時脚はねと後ろ足でキチキチという音をします。</p> <p>大きさオス40~50mm、メス75~80mm 場所本州~南西諸島 季節6~11月</p> <p>オオカマキリ 林の中や草原などに多く見られます。体は緑色または茶色です。後ろ脚は紫色のようがあります。</p> <p>大きさ10~95mm 場所本州、四国、九州、南西諸島 季節8~11月</p>	<p>夏</p> <p>アオスジアゲハ 美早く飛び、オスは、よく、飛ぶに専らします。</p> <p>大きさ4.5~5.5mm 場所本州~南西諸島 季節関東地方では5~9月</p> <p>アブラゼミ ナンなどの果汁を多く、連続して鳴きます。体は、胸部の赤い2枚の翅は、ほぼ黒い色です。</p> <p>大きさ36~38mm 場所北海道~九州、鹿児島 季節7~9月</p> <p>冬</p> <p>ヤスデ 細長い体に短い歩脚がたくさん生えています。落ち葉の中でくらしています。</p> <p>大きさ25mm 場所日本全土</p> <p>わらじ虫 草むらなどに住み、落ち葉やくちなどを食べます。</p> <p>大きさ10~12mm 場所北海道本州(中部地方以北)</p>
---	---



緑道をなくし草食昆虫がいなくなるとまうと腐や肉食昆虫に影響が出ます。肉食昆虫は枯葉の危機にさらされてしまいます。鳥は昆虫を食べられなくなるので、人が育てている木の葉や果物を食べるようになります。また、カラスは果物や木の葉以外にゴミを食べます。するとゴミを荒らしてしまうのでゴミが街に散らかってしまいます。こうして人にも影響が出てしまいます。

肉食昆虫がいなくなるとまうと腐にいる芋虫を食べる者が減ってしまうので芋虫増え畑が荒れます。

わらじ虫は、湿気が多い落ち葉の下や石の下、朽木のすき間などに生息しています。

わらじ虫の役割は、落ち葉を食べて、分解することです。

なので、わらじ虫がいなくなると、道や庭が落ち葉でうまってしまいます。

カブトムシの幼虫は、土の中にいます。そして、葉っぱと土を食べています。カブトムシの幼虫のふんは、植物の肥料になります。なので、カブトムシの幼虫がいなくなると植物が成長しにくくなってしまいます。

ミミズは、土の中にもいるしかも湿った所にもいるときがあります。ミミズも役に立ち、土を掘り空気や水を通りやすくする役割もあります。ミミズがいなくなると、農業や化学肥料の使いすぎが考えられます。

